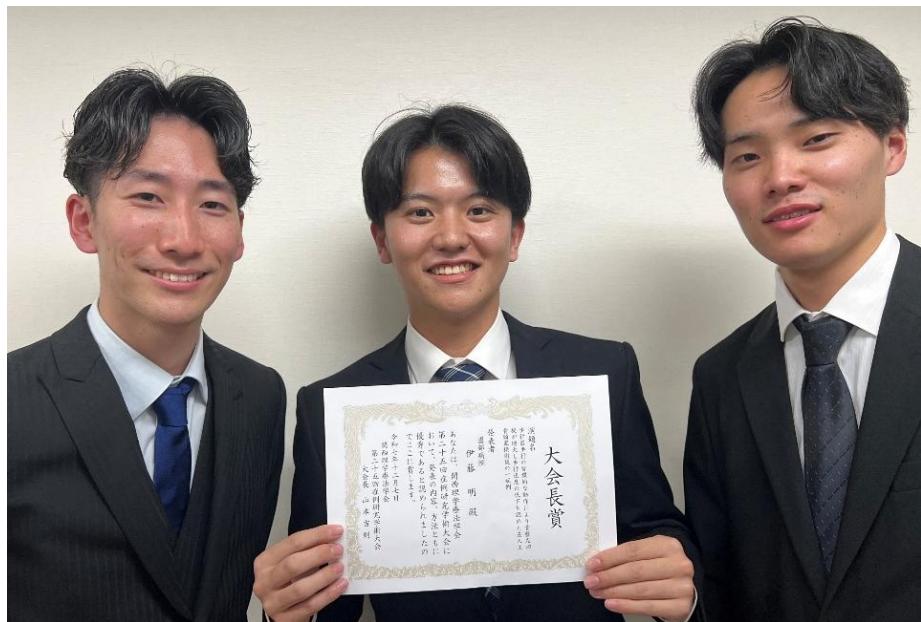


第25回関西理学療法学会 症例研究学術大会での発表について



令和7年12月7日(日)、関西理学療法学会が主催する症例研究学術大会がおこなわれ、リハビリテーション部に所属する理学療法士3名(谷川龍輝、伊藤 明、上田凌平)が、日々のリハビリテーションでの臨床研究の成果を発表しました。

なかでも、伊藤 明理学療法士が発表した演題が学会の優秀演題に選ばれ、大会長賞をいただくことができました。毎年、若手の職員が卒後教育の一環として取り組み、発表者以外の多くの職員も発表に向けて協力しあい多くの助言をするなど、リハビリテーション部がチームとして成長できる貴重な機会となっています。

今後も、自己研鑽を重ねることで、患者様やご家族の思いに寄り添い、安心した生活が送れるように、運動機能や日常生活活動動作を向上するための、より良いリハビリテーションが提供できるよう取り組んでいきます。

歩行器歩行の習慣的な動作により 骨盤左回旋が増大し歩行速度の低下を 認めた左人工骨頭置換術後の一症例

伊藤 明^{1, 2)}、 富長 陸¹⁾、 楠 貴光^{1, 2)}

1)園部病院 リハビリテーション部
2)関西医療大学大学院 保健医療学研究科



車の運転中の姿勢に着目したこと
で右折時の左肩前面の疼痛軽減に至った
左肩インピンジメント症候群の一症例

園部病院 リハビリテーション部

谷川龍輝、 楠 貴光



靴下動作で左股関節屈曲90°以上の
外旋制限により動作遂行が困難で
あつたL2/3椎間板ヘルニアの一症例

上田凌平^{1, 2)} 伊藤翼宙¹⁾ 楠 貴光^{1, 2)}

1)園部病院 リハビリテーション部
2)関西医療大学大学院 保健医療学研究科

